

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホームあたご		
所在地	長崎県佐世保市相浦町138-2		
自己評価作成日	令和3年 8月 10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の半数近くが90歳代と平均年齢も高くなっていますが、生活の中に楽しみを見つけていただけるよう職員と一緒に出来る様々な活動を取り入れています。誕生会をはじめ、月の行事、季節の花の見学や外出支援など利用者に無理なく参加していただける催しものおこなっています。また食事では、好みの食べ物をお聞きし、献立に取り入れれたりおやつとして提供しています。コロナ禍で地域とのかかわりが減っている状態ですが、ご家族をはじめ運営推進会議にて利用者の施設内での様子や活動などを地域の方にも知っていただくようお伝えをしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、毎月の家族通信を利用者ごとに発行しており、写真付きで現状を知らせ、新型コロナウイルス禍で面会が思うようにできない中、家族の安心と楽しみに繋がっている。電話で密に連絡する他、利用料の支払いに訪れる家族の不安や家庭内の心配ごとを傾聴することで、家族の精神的なケアに努めていることは特筆すべき点である。事業所が職員の要望や意見を業務改善や支援に活かすと共に、希望の研修参加や休憩室の整備など働きやすい職場環境に取り組んでいることは特長である。更に、かかりつけ医と看護師の定期的な往診等で気軽に相談でき、本人・家族、職員が安心できる体制を整えている。現在、運営推進会議は書面会議であり、メンバーが必ず意見を返信しており、充実した内容の議事録が確認できる。感染症対策を講じ、花見や個別の外出支援で地域に溶け込む工夫もあり、職員の寄り添う支援は利用者の穏やかな表情に繋がり、理念の「ゆっくり、楽しく、一緒に」の下、安心して暮らせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所入り口の誰にでも目に入るところに掲示し、「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念をもとに職員が日々意識し協力し合い利用者が笑顔で過ごせるように努力している	開設時に代表、職員で話し合い決めた理念は、これまで頑張ってもらえた利用者には、これからは「ゆっくり、楽しく、一緒に」過ごしてもらいたいとの思いの気持ちが込められている。日々、利用者へ寄り添う声掛けを行い、理念についてユニットカンファレンスで、話し合いや振り返る機会もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は町内の行事に参加したり、災害訓練など一緒にのっていたが、現在はコロナ禍の中、交流は少なくなっている。運営推進会議などを通して利用者の様子を知っていたい	町内会長や民生委員から地域の情報を得ている。事業所の畑の手伝いに町内会長の訪問があったり、災害時の近隣住民の協力体制、地元商店での食材購入など、町内会の一員として地域に広く浸透している。また、特別支援学校生の体験学習受入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(現在は書面会議が主)を通して支援の方法や活動の報告を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員、地域包括支援センターの職員、家族代表など多方面の方の参加により意見交換を行い、要望や希望などの意見をカンファレンスで話し合い、実践できるようにしている	2ヶ月毎に規定の参加者で、感染症の状況を見て対面か書面での開催である。事業所の現状、研修、活動報告や感染症防止の取り組み、参加者との活発な意見交換など、詳細な議事録で確認できる。今後、看護師や警察官、消防署員などに依頼しプロの意見を聞くことも検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	さまざまな取り組みの報告をおこなったり、市主催の研修に参加している	介護保険の更新、申請手続きなどで支所の窓口に出向き、担当課職員の定期的な訪問もあり、相談や確認を行っている。市主催の研修会は現在よりリモート参加である。市の資料を基に内部研修を実施している。包括支援センターとは日常的に情報交換し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯のため夜間のみ行っている。身体拘束は定期的な研修を行い、意見交換や情報の共有を行っている	事業所は、職員に向けて無記名で虐待の目チェックリストを不定期に実施し、集計して日常のケアを振り返っている。研修も定期的に行い、言葉による制止等に注意している。転倒防止のセンサー使用は毎月検討し改善、継続を家族と相談しながら拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、気づきや意見交換をしたり、自分たちの日頃の行動を振り返り、毎日の支援の中で虐待へつながるケースがないかなど課題を見つけ協議の場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を活用している方はいないが、制度の理解や活用方法など研修をおこなっている。定期的な研修は今後も行っていく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設の様子を説明したり、面談を行っている。ご家族のお話を聞いたうえで十分説明を行い、理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に意見箱を設置している。また、ご家族の来所時、心配事や要望など意見を聞きカンファレンスで話し合い、意見やご希望に応えられるよう努力している	以前から個別に写真入りの便りを毎月発送しており、特に新型コロナ禍で会えない状況では、家族に現状を伝えることに役立てている。窓越しに面会に訪れる家族や電話で近況を尋ねる家族などにも丁寧に対応し、安心してもらえるように努めている。特に家族の不安や心配ごとを傾聴し、支える姿勢は優れた点といえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際や普段何かあった時など、常に意見や提案を言えるような環境が整っており、言いやすい関係が築けている	各ユニットの会議、全体会議をそれぞれ月に一度行い、職員は積極的に発言している。職員のアイデアから家族に昔のアルバムを持って来てもらい、利用者と昔の話を聞く際に活用しようと考えている。また、利用者支援に関わることではない業務の見直しを行うと共にWi-Fiを整備し、働きやすい職場環境となるよう意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートなどを実施し、業務についての不安や体調などを把握され、向上心をもって働けるよう努力されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体カンファレンスでは施設内研修を行い、アンケートでは資格取得などの希望をきいてスキルアップに関して相談もできる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で交流はできていないが、リモートなどでの研修会は参加し、意見交換などができるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談等で入居前の情報をできるだけ取り入れ、ご本人の不安なこと要望等を聞き、それに対して安心してより良い環境で入居できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や何に困っているのか、これからどのように過ごして欲しいかなど、気持ちや要望を聞き取り安心していただけるよう、話し合いを多く持ちながら良好な関係を築けるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お一人お一人に合った支援を見極めるため、以前受けられていたサービスや関りを持っておられた他職種の方々とも情報をできるだけ多く共有し、細やかな対応が出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者として接するのではなく同じ人として接するように心掛けている。すべてを介助するのではなく、できる事を一緒に続けていけるように支援するよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会が難しい状況が続いている中、生活の様子がわかるようにお便りで体調や活動の様子をお伝えしたり、ご家族に電話で近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご近所の方の面会が難しくなったが、可能な限り電話で話をしたり、行きつけの美容室に行ったり、馴染みの方と話ができるようにしている	新型コロナ禍以前は家族の訪問は頻繁にあり、現在は窓越しの面会に対応している。不穏な様子の利用者には、自宅近くまでドライブして気分転換を図っている。また、カトリック信者の利用者には神父や信徒の訪問があり、カトリック新聞が届いている。職員は利用者の馴染みの関係継続に向けてアイデアを出し支援に繋げている。	新型コロナ禍の現状では、家族と利用者の面会は困難な状況にあるため、設置したWi-Fiを活用し、オンラインで面会できるよう検討、工夫に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に難聴の方など上手く聞き取れず会話の中で孤立になりがちなため、利用者同士の間に入り会話の手助けをしたり、話のきっかけを作るようにしてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、お会いした時に話を聞いたり、相談事がある時は、いつでも面会や電話で対応できるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話せる時間を見つけてコミュニケーションを多くとり希望や意向を把握したり、普段の生活からくみ取れるよう努めている	前回の気づきであった生活歴の集約方法については、全利用者に生活歴情報シートを整備し、普段の会話等で知り得た新しい情報を記録している。言葉での表現が苦手な利用者は表情で汲み取り、職員間で共有し、本人の意向を支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話やご家族からこれまでの生活歴などの聞き取りをしてアセスメントを行い、その方に合った暮らしを提供できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の表情を見たり、バイタル測定を行う中で心身状態を把握し、また1日の過ごし方や言動などをカルテに記入し情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へ生活の様子や精神状態をお伝えし要望をお聞きしたり、ユニットのカンファレンスで情報交換を行いながら必要な支援について話し合いを行いながら作成している	介護計画は長期、短期の目標を設定し、月1回のカンファレンス、3ヶ月毎モニタリングである。家族に電話や窓口で本人の状態を詳しく説明し、担当職員が家族や本人の思いの変化も見逃さず聞き取り現状に即した計画作成し同意を得て実践に繋げている。介護計画に基づく実践記録もわかり易く、本人のQOL向上に努めていることがわかる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量や日中の活動の様子、夜間の様子など些細なこともカルテに記入し情報を共有しながら気づきがあればその都度話し合いを行い、計画書の見直しをするようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り要望に応えられるように心掛けているが、難しい要望でも違う形で応える事ができないか職員間で話し合いを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中で地域との交流が激減している。感染対策や予防を行いながら、少しずつ楽しむ活動が出来るよう支援の方法を考えていく必要がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設主治医には月2回の往診を受けているが、ご本人や家族の希望があれば、以前からのかかりつけ医を継続することが可能。専門医の受診などご家族と協力しながら続けることができる	協力医の24時間医療連携と月2回の往診、看護師の月2回の健康観察もあり相談など気軽にできる体制を整えている。眼科など専門医の受診は家族対応である。事情によっては職員が同行支援しており、受診結果は双方で共有している。職員は緊急時のAEDや心肺蘇生法の研修を受け理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診とは別日に健康観察を行っていただいている。利用者の状態をバイタルを含めチェックして主治医へ報告を行い、必要時には受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での情報提供を行い、早期の施設復帰のため、ご家族や関係者から病状やリハビリの様子、入院中の生活の様子など情報収集をおこなったり、面会を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族への状態説明を行い、家族、主治医、施設で情報を共有し支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合と看取りの指針の説明を行い、意思の確認、同意書を得ている。希望があれば看取り支援を行う方針であるが、これまでに事例は無い。早い段階から主治医から家族等に状況説明を行い、希望や思いの変化があると理解し、柔軟な対応ができるよう情報共有しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について研修や訓練の場を設けている。マニュアルを目につくところにおき、定期的な目を通すようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に日中や夜間想定など状況を変えて訓練を行っている。消防署や地域の方にも協力していただいている	年に1回、消防署立ち会いの訓練を実施し助言を次の訓練に活かしている。その他、昼・夜間想定で年3回訓練を行い、通報装置に消防団や隣組を登録し協力体制を整えている。災害時訓練も全利用者、地域参加で実施している。各居室に緊急持出し袋やヘルメット、水、食料などの備蓄がある。ただし、立地に沿った自主訓練の必要性がある。	予想できない災害時に利用者を守り、夜勤職員の不安等を解消するためにも、事業所の立地条件に沿った自主訓練を積み重ねが重要である。落ち着いた避難ができるよう、訓練の方法や回数増等の検討、取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格や思いを尊重し理解したうえでその人に合った言葉かけやケアを行うように努めている	各ユニットで個人情報の保管を工夫しており、外部にわからないようイニシャル表記も確認できる。利用者は苗字で呼ぶことを基本とし、家族の要望により名前で呼ぶなど臨機応変に対応している。職員は守秘義務の誓約書を提出しており、管理者はプライバシーを重視するよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をしやすいような言葉かけを心掛けているが、思いを上手く伝える事ができない方に対しては普段の様子をよく観察し、思いを表せやすい環境を作るように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを考えその方の合った過ごし方を支援しているが、ご自分のペースで過ごされている方もいれば、時々職員側の都合で思うように過ごせていない方もいるように感じる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔な服装を心がけ、定期的に美容室などに行っている。気温や室温に合わせた衣服調整が難しい方は話し合いながら一緒に服選びなどを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのおかずを訪ね、メニューに活かしている。簡単な作業を手伝っていただいたり、食後は茶碗拭きや台拭きなどの手伝いをおこなっている	調理担当職員を配し、全利用者の嗜好を把握し調理している。食材は地元の商店に注文し配達があり、新鮮で且つ旬の食材に配慮している。プランターで栽培した野菜は利用者と一緒に収穫し、料理することが楽しみとなっている。敬老会では刺身を提供し喜ばれている。また、外出に出掛けたり、出前を取るなど楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量など細かく観察、記入を行い栄養状態を把握している。水分摂取量など疾患によっては過剰になりすぎないように主治医に相談しアドバイスを受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人に合わせたブラシを使用したり、毎食前にうがい、食後に口腔ケアを行い口腔内を清潔に保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、その方の合った声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間オムツを使用されている方も日中はトイレでの排泄を行えるよう介助を行っている	全居室にトイレ、洗面所を設置しており、利用者はそれぞれに自身の居室に戻ってトイレで排泄している。職員は全員の排泄パターンを把握しており、定期的な誘導にて排泄を介助している。重度であっても職員が2人介助でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分量や日中の運動量を考え便秘予防に努めている。便秘症状が続かれている時は主治医に相談を行っているができるだけ自然排便ができるようにお茶の種類を変えるなど飲み物を工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴でき、1日おきに入られているが、汚染時などはいつでも入る事ができ、清潔を保つようにしている。入浴の声かけに拒否が見られる時は翌日へ変更したりして対応している	週3回、入浴を支援しており、翌日にも入浴希望があれば対応している。入浴拒否時はしばらく時間を置いて声掛けして誘導しており、ほとんどの利用者は翌日に持ち越すことはない。入浴剤や季節のゆず湯、しょうぶ湯を提供し、職員と1対1の時間は昔の話を聞くことができる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の気持ちを優先し、日中臥床されたい時は休んでいただいている。また、夜間十分な睡眠がとれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬はカルテやお薬手帳で確認し把握できるようにしている。薬の変更や新たな処方、副作用など申し送りや情報を共有している。また認知症による内服拒否などの研修を行い、その理由や対応などを話し合っ支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみながらできるお手伝いや得意とする制作活動を行っている。塗り絵を掲示し皆さんに鑑賞していただき楽しみややりがいを感じていただけるようにしている。気分転換のため屋外への活動としてドライブやおやつ外食などを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で屋外での活動も減っている。ご家族との外出が未だできていないため、季節にあわせ花見やドライブを行っている。おやつ外食などは店舗を確認しお客様が少ない時間帯などを教えていただいている	新型コロナ禍ではあるものの、感染予防対策を図り、車椅子の利用者も全員でドライブしながら桜、藤、菖蒲、秋桜等季節の花見を楽しんでいる。また夕涼みを兼ねて畑に出たり、気分転換に外食するなど、職員が工夫している。平日の午後出掛けるおやつ外食は、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で手元に管理できる方はおられないが、ご家族、ご本人の了解を得て事務所にしてお預かりしている。必要時にはいつでも買い物などできるようになっていて、職員と買い物に行かれることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけることも可能で、かかってきた際にも話をさせていただいている。話の内容が聞きとりにくいときには、内容を聞いてお伝えしたり会話をサポートしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレ、フロアーなど常に掃除し清潔にしている。フロアーでは壁に折り紙で季節を表したり、制作した塗り絵などを展示している。空調は室温等も細かくチェックし温度調整を行っている	リビングでは、利用者が塗り絵やパズルなど好きなことを職員と談笑しながら楽しむ様子が覗える。居間、浴室、トイレなど掃除や換気、室温調整も定期的に行い清潔である。利用者作成のちぎり絵、塗り絵など壁に飾られ季節感もあり、キッチンの音や香りは家庭的で、利用者が寛げる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のソファを設置し誰でもゆっくりと談笑できるようにしている。日向ぼっこが好きな方は窓際に椅子をおいて好きな時にゆっくりと過ごしていただくようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望でTVを置く事ができる。仏像を置かれたり、マリア様像を飾られるなど自宅での祈りを続けられるようにしている。また、家族の写真や制作した塗り絵など飾り喜んでいただいている	自宅から仏壇、マリア像、テレビ、整理棚など持参し、家族写真、自作の作品など馴染みの環境の中で生活できる工夫がある。ベッドは本人の状態に合わせ配置し、居室内のトイレで気兼ねなく排泄できる。入口に職員の手作り暖簾があり、自室がわかり易く、掃除や換気も行き届き清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内、居室、トイレ浴室などすべて手すりを付け、安全にご自分のペースで歩けるようにしている。また、居室には手作りの名前プレートや暖簾をつけ、ご自分の部屋がわかるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホームあたご		
所在地	長崎県佐世保市相浦町138-2		
自己評価作成日	令和3年 8月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の半数近くが90歳代と平均年齢も高くなっていますが、生活の中に楽しみを見つけていただけるよう職員と一緒に出来る様々な活動を取り入れています。誕生会をはじめ、月の行事、季節の花の見学や外出支援など利用者に無理なく参加していただける催しものおこなっています。また食事では、好みの食べ物をお聞きし、献立に取り入れれたりおやつとして提供しています。コロナ禍で地域とのかかわりが減っている状態ですが、ご家族をはじめ運営推進会議にて利用者の施設内での様子や活動などを地域の方にも知っていただくようお伝えをしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念を心掛け日々家庭的に生活できるように職員一同実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や作品展の作品出品など交流をおこなっていたが現状はコロナ禍で出来ていない。ワクチン接種が終了し感染状況を見て交流できるように努める		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて町会の方や民生委員、地域包括支援センター、家族の方々へ施設内の様子などをお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は施設内での開催が難しく、書面会議が主になっているが、カンファレンスなどで話し合った事や行事などを報告し、会議に参加された方の意見を実践できるようにサービス向上につなげている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	リモート研修など参加できる出来るようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため玄関の施錠をおこなっている。行動の抑制にならないように、見守りセンサーの使用など、ご家族へ必要な状況をきちんと説明し、話し合いをおこなって使用している。また、毎月センサー使用についての検討会を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの際に研修行い学ぶ機会を設けている。日々の支援の中でグレーゾーンがないか、職員間で確認し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスで学ぶ機会があり理解できるように努めている。また、この制度を活用しないといけない時は、早め早めに対応する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、納得されるまできちんと説明を行い、不安や疑問もきちんとお尋ねしている。また、改定などがあつた場合はその都度お便りにて説明をおこない、問い合わせなどが出来るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対し要望や意見が無いか来所時や電話での近況報告の際に伺っている。意見が出た場合はカンファレンスで話し合い、要望に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットカンファレンスでの意見や個別の意見などを、全体カンファレンスで発信できる場がある。また、個人的な相談や意見も受け付けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートなどで、体調の確認や業務に対しての不安要素などを把握され、必要に応じて個別面談や相談ができるようになっていく		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのための研修や受けたい研修の相談ができる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍の為他事業所との行き来はないが、可能な限り連絡を取り合い、情報交換をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り自宅を訪問したり面談を行い、ご本人が不安に思っておられる事を聞き取り、安心していただくように信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも密に連絡を取り合い些細なことも相談していただけるように話し合いを重ねて良い関係作りが出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際に何が一番不安で心配されているのか、今迄の生活の様子なども詳しく聞き取りをしながら対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常からコミュニケーションを図り、その方の好きな事、興味がある事、これまでの生活習慣など様々な事を聞き、ともに時間を過ごし信頼関係を築いていくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などで近況を伝え、心配なことは常に話し合い、協力していただける事はお願いすることもあるが、利用者が安心して過ごしていただけるように信頼関係を作っていくように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に以前住んでいた地域へ行くことがあれば、今の地域の様子を見ていただいたり、定期的に馴染みの理髪店や美容院へ行き、馴染みの方と話をさせていただいている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話をしやすいように席を決めたり、全員で参加するゲームなどをレクリエーションに取り入れている。また、会話が上手く続かない時など職員が間に入りサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ入所された際は可能な限りご面会に行っているが、今はコロナで行けていない。退所後も相談など気軽にできるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で多くコミュニケーションを取り、希望や意向をくみ取るようにしている。出来るかぎり希望に添うようにしているが、出来ない時は本人とよく話し合いを行うようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報やご家族との面談、ご本人への聞き取りで今までの生活の様子や生活環境などを把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のカルテに1日の過ごし方や心身の状態などを細かく記入し、新たな発見(介助の仕方や接し方など)も全職員で情報を共有できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、気づいたことや利用者の言動についてカンファレンスで話し合い、課題に対して対策などを検討している。そのうえでご家族と話し合い説明をおこない計画書を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに毎日の様子を記入し、介護計画に添ったケアの実践をおこなっているが、結果として本人に合わない状況が発生した場合には、話し合いをおこなったり、介護計画の見直しにつなげていくように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望に対し、対応できる支援方法を考えるようにしているが対応できないこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域とのかかわりも多く、地域の情報も多く取り入れる事が出来ていたが、現在はコロナ禍で交流も減っている。感染状況を見ながら、利用者にあった地域での関わりを考えていかなければならないと思う		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設かかりつけ医がいるが、ご本人やご家族の希望で主治医の変更は可能。かかりつけ医には日、祝日夜間を含めいつでも連絡相談や受診、指示を仰ぐことができる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の健康観察に来ていただいている。利用者のバイタル測定や観察を行い主治医へ報告したり、アドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が出来るように情報交換を行い、可能であればご面会に伺い、体調の確認やADLの確認をおこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で話し合いを行うようにしている。本人やご家族の希望を医師を交えて話し合いを行い、出来るだけ希望に添えるように支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時対応の研修を定期的におこなっている。心肺蘇生の訓練などもおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練、災害訓練を定期的におこなっている。地域の方の参加や見学、消防署の立ち合い訓練も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉かけには注意をしている。なれなれしい言葉になったり、命令口調などにならないように注意し、職員同士でも注意しあっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと時間をかけ、ご自分で選択したり、希望を伝えやすいような声かけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを確認し、やりたいことができるように利用者側に立って考えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院等へ出かけたり、着たい服を一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下状態に合わせた食事形態で提供し、食器など使いやすい物を使用している。好きな食べ物を献立に組み込んだり、おやつとして提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人に合わせた食事量を考えて提供している。必要に応じて高カロリーゼリーなどの補食を提供し、水分量など主治医へ相談も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや食後の歯磨きを行い、歯磨きや義歯磨きが十分にできない方は介助を行っている。また、毎日の義歯消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、リハビリパンツやパットに頼らず、時間おきの誘導を行い、できる限りトイレでの排泄を行えるようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、歩行運動などで自然排便を促すようにしている。便秘症状が強い方は主治医へ相談し、必要時には薬の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴で日曜日以外は入浴できる。入浴剤などを使用し、視覚でも楽しんでいただけるように工夫している。入浴に拒否が見られる時は翌日に変更するなど対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望や体調に合わせていつでも臥床していただいている。ゆっくりと休んでいただくために室内の明るさなども注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などを理解して服用していただいている。薬の内容に変更があった時は細かく様子観察し、職員間での申し送りや情報の共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来る力や希望に合わせてお手伝いや手作業を行っている。楽しみながら行うことで、継続できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前に比べ外出の機会が減っているが、天気や体調を考慮しながら少人数で出かけた、人込みを避けるなど対応しながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご本人やご家族の了承のもと事務所に預かっている。必要な時はいつでも使うことができる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎなど可能。ご家族から定期的にお手紙も届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のフロアーには季節の壁紙を制作したり、利用者が作成した塗り絵などが飾ってある。キッチンオープンで、食事の準備をしている様子が見えるようになっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファを置き、一人で過ごされたり、利用者同士話をされたりしている。そのほか、好きな時にできるように塗り絵やパズル、おはじきや雑誌などを置いて楽しんでいただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒されないように室内の環境整備に注意している。家族の写真や制作された塗り絵などを飾っている。TVを設置されている方もおられる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内には手すりがつけてあり、安全に移動できるようになっている。居室入り口にはネームプレートや名前入りの暖簾がつけてあり、ご自分の部屋がわかるようになっている		